

子ども・保護者・保育者が「育つ幼稚園」



園長室だより

城南学園幼稚園 園長 太田友子 2023年1月10日

『育つ幼稚園』

更なる飛躍をめざして！

2023

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。
本年もどうぞ宜しくお願いいたします。

さて、干支は癸卯（みずのえう）年です。「開花」「向上」の年、これまでの成果が発揮される「飛躍」の年とも言われています。三学期は、子どもたちにとって、「開花」「飛躍」への大切な節目となります。子どもと「共に」育つよう、頑張っていきたいと思えます。



教育アンケート

へのご協力、ありがとうございました。よりよい園づくりへのアイデアや励ましなど、「育つ幼稚園」にとって貴重なお声をいただきました。改善・充実に向けて検討を始めています。結果については、3月の学校関係者評価委員会を経て、HPで公表する予定です。

励ましのお声を一部ご紹介します。

私が一番感じていることは、どの先生方もいつも明るく笑顔で挨拶をして下さったり、丁寧な言葉遣いで関わって下さったりしていることで、娘も園だけでなく色々な方に挨拶やお礼を積極的に伝えられるようになりました。また、担任の先生のこと娘は大好きで、恥ずかしがり屋の娘が走って先生に抱きつきに行く姿を見て、沢山の愛情を注いで下さっているのだと強く感じ、感謝の気持ちでいっぱいです。安心して預けられる幼稚園だと皆さんにお伝えしたいです。 一年少児保護者ー

先生間で園児の情報が共有されていて、担任以外の先生にも、見守って貰えているという安心感があります。担任の先生と顔を合わすたび、今日こんな事が...と保育中の子供の様子を教えていただき、長い園での生活の様子が垣間見えて、ありがたいです。預かりの先生もとても親切で、迎えに行った時に、些細な事も報告してくれ、とても嬉しいです。卒園した兄との違いまで気付いてくれ、密な保育をしていただけていると実感します。 一年中児保護者ー

いつも幼稚園に行くと感心いたしますのが、どの先生とすれ違っても明るく丁寧に挨拶して下さるところです。娘が幼稚園に入園する前の説明会の時の印象はとても良く、入園後もいつでも優しく温かい先生方の雰囲気は変わりありませんでした。娘も毎日楽しく幼稚園に通っておりとても明るくのびのびとしていて先生方の姿勢を日々近くで見ている娘は挨拶もしっかりできるようになりました。共に育てるという教育理念は、子供たちはよく見ているので良き手本になれるよう家庭でも私たち大人は気をつけなければならないと襟を正される思いがあります。いつもありがとうございます。 一年中児保護者ー

年長になり、良いことも気になる事もその都度電話でご連絡頂き、園の様子をあまり話さない我が子なので、とても有り難いです。お忙しい中、時間を取り、丁寧にお伝えして下さり、本当に一人ひとりしっかり見て関わってもらっていることが伝わります。ありがとうございます！「4月から小学生、幼稚園も卒園だね」と話した時、「いやや、先生とずっと一緒にいたい。卒園したくない。」と涙を浮かべて言う位先生が大好きです。お友達も「僕の宝物!」という位大好きです。残り数ヶ月、お友達や先生方とたくさん楽しい思い出を作りたいと思えます。卒園まで、どうぞよろしくお願ひ致します。 一年長児保護者ー



ある日の園児のつぶやきです。「あんな、失敗したら絶対あかんねん、お兄ちゃんが言うてたもん！」小学生の兄は先生から言われたとのことで、それが園児のつぶやきとなったのです。どんな文脈で何を学んだのかは不明です。これを聞いた保育者は、日頃の保育とはあまりにも真逆の価値観だったため驚きました。

しかし、このようなつぶやきは決して珍しいことではなく、本学園の学生たちからもよく耳にします。また、私の小学校教育の経験からも、「失敗はあかん」「まちがったらあかん」に対する概念砕きは手ごわく、学習指導の最優先事項であったことを思い出します。

「成功の反対は？」と尋ねると学生たちは、たいてい「失敗」と答えます。私は、「成功」の反対は「何もしない」こと、また「失敗から学ぼうとしない」ことでもあると具体的な事例をあげながら伝えています。そして、「失敗」は「成功」へとつながる第一歩で、かつ貴重な経験であること、このことに学生たちが気付き、安心して保育者をめざしていけるよう、向き合っているところです。

ここで、本園での年長児の保育記録をご紹介します。『生活発表会の練習後、みんなで振り返ったとき、子どもたちは「ぜんぜんうまくいかなかった」と自己評価しました。その根底には「うまくできるようになりたい」という願いがあることに子ども自身が気付けるよう、保育者は「そうやね、うまくいなくて悔しかったね。どうしたらうまくいくのかな？」と前向きな振り返りへと導いていきました。すると、子どもたちは各々その改善策を発言し出しました。やがて、ある園児が「先生、なんか次、もっとがんばろうという気持ちになってきた！」とつぶやいたのです。』失敗が学びとなった瞬間です。

ips細胞研究で2012年ノーベル医学・生理学賞を受賞された山中伸弥さんは、「9度の失敗があつて1度の成功がある」と後輩に話されています。研究分野では、9度の失敗どころか、数えきれない失敗（挑戦）を重ねることは当然の営みといえるでしょう。

成功につながる「失敗から学ぼうとする態度」は、幼児期では具体的な場面で保育者との対話の中で育まれていくのです。



今年も『園長室だより』を発行してまいります。「共に」育てる関係づくりの一助となればと願っています。ご意見・ご感想などをお寄せください。

